



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

和歌山県 和歌山県立向陽中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期** 日：2023年10月25日(水)
- **ク** ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・陸上競技の短距離種目で2004年のアテネ、2008年の北京、2012年のロンドン大会の3度オリンピックに出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明。運動の時間はオリンピックバリューを意識し、怪我なく楽しく運動をしてほしい。準備運動は、2人組でじゃんけんをして勝ったら(負けたら)相手の周りを1周走るゲームを行う。その後、縦2列を作り、指示のあった列の人が反対の列の人を追いかけるゲームを実施。

○主運動等



・主運動は「ボール取り競争」を実施(各班練習含む全6回実施)。ローテーションで4班ずつ行い、ボールはバスケットボールを使用。体育館中央にボールを8個置き、中央または相手の陣地からボールを取り、自陣(フラフープで陣地設置)にボールを3つ揃えた班が勝ち。ただし、同時に班の数名が移動することや、ボールを抑える等の防御は禁止するルールを伝える。練習はボール8個、その後本番では7個に減らして実施。



・運動の時間を振り返り、皆が積極的に取り組み、白熱した試合を見ることができてとても良かった。各班が作戦をよく考え、また他の班の作戦を参考にしながら試合に臨んでいた。座学の時間は、オリンピックバリューについて更に皆と考えていきたい。皆が普段の学校生活で感じていることを言葉にすることが大切であり、そのことに正解も不正解もない。自分自身を見つめ直す時間にしてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期** 日：2023年10月25日(水)
- **ク** ラ ス：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像とスライドを使用し自己紹介。3度のオリンピック出場の中で、2008年の北京大会4×100mリレーで獲得したメダルを披露。当時優勝した国の選手がドーピング違反となり、大会から10年後に日本は3位から2位に繰り上がり、自身の手元に銅メダルが届いた。1人のルール違反によって、様々な影響をもたらし、多くの人の人生を狂わせた。何事もルールを守る大切さを改めて感じ、そのことをこれからも多くの人に伝えていきたいと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分にとってのフレンドシップとは何かを考えよう。

発表：エクセレンス：「お互いが切磋琢磨し合う」「競い合い高め合う」「何事にも最善を尽くす」「広い視野を持つ」等

フレンドシップ：「友達の気持ちをいつも考える」「相手を信頼する」「仲間と話し合う」「支え合って頑張る」等

リスペクト：「仲良くなっても言葉遣いに気を付ける」「嫌な思いをさせない」「良いところを褒める」「相手を肯定する」等



・座学の時間を振り返り、フレンドシップについて考えて貰ったが、その中にエクセレンスやリスペクトが含まれていることに気付いたと思う。オリンピックバリューは、身近な皆の生活の中にある。物事には正解でも不正解でもないことが多い。自分にとっての答えを見つける時に、様々なバランスを考え、周りの人に感謝の気持ちを持って行動することで自然と答えが出る。オリンピックバリューや自分自身が思う大切にしている気持ちを表現しながら生活して行ってほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生 (陸上競技 短距離)
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期** 日：2023年10月25日(水)
- **ク** ラ ス：2年B組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・陸上競技の短距離種目でアテネ、北京、ロンドン大会の3大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューは皆の日常生活でも感じることができる。運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら怪我のないように楽しく取り組んでほしい。準備運動は、2人組でじゃんけんをして勝ったら(負けたら)相手の周りを1周走るゲームを行う。その後、縦2列を作り、指示のあった列の人が反対の列の人を追いかけるゲームを実施。

○主運動 等



・主運動は「ボール取り競争」を実施(各班練習含む全6回実施)。ローテーションで4班ずつ行い、ボールはバスケットボールを使用。体育館中央にボールを8個置き、中央または相手の陣地からボールを取り、自陣(フラフープで陣地設置)にボールを3つ揃えた班が勝ち。ただし、同時に班の数名が移動することや、ボールを抑える等の防御は禁止するルールを伝える。練習はボール8個、その後本番では7個に減らして実施。



・運動の時間を振り返り、各班で作戦を考えそれを実践し、またその作戦を他の班が参考にする等、様々な工夫をして取り組むことができていた。全力で走ってボールを取りに行く、友達と協力し合う、他の班を認め合い尊重し合うことは、全てがオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自身のオリンピックでの経験等を話すので、皆は運動の時間に感じたことを思い出しそれを結び付けて考え、自分自身のこれからのオリンピックバリューを考えてほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期** 日：2023年10月25日(水)
- **ク** ラ ス：2年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像とスライドを使用し自己紹介。2008年の北京大会では銅メダルを獲得したが、10年後に、優勝した国の一人がドーピング違反となり順位が繰り上がり、銀メダルを手になることになる。その経験はルールを守ることの大切さを改めて感じた。皆が毎日学校に通うことは当たり前ではなく、学ぶ努力やクラスの仲間との友情、先生や家族への感謝や尊敬は、オリンピックバリューに当てはまる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分にとってのフレンドシップとは何かを考えよう。

発表：エクセレンス：「具体的な目標を立てる」「休まず部活に行く」「計画を立てて実行する」「宿題を忘れずにやる」等

フレンドシップ：「お互いが言いたいことを言い合えること」「助け合う」「いつでも協力する」「コミュニケーション」等

リスペクト：「相手との違いを認め合う」「友達の良いところを真似する」「物を大切に」「ルールを守る」等



・座学の時間を振り返り、皆の普段の生活の中にオリンピックバリューがあることを理解して貰えたと思う。お互いを認め合い尊重し合うことはとても大切な。文化や考え方の違い等で対立してしまうこともあるかもしれないが、そんな時は、出会った全ての人の立場になって考え、相手を尊重する気持ちを持ってほしい。これからもオリンピックバリューを大切に、色々な可能性を探って挑戦してほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■修了証贈呈

